

## 平成23年度第1回成田市コミュニティバス等交通会議の概要

### 1 開催日時

平成23年5月31日(火) 午後2時30分～午後3時15分

### 2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所 議会棟3階 執行部控室

### 3 出席者

(委員) 16名

伊藤会長、成毛副会長、黒田委員、一色委員、大澤委員、大木委員、  
佐藤委員、松室委員、遠藤委員、小堀委員、宮崎委員、佐藤(克己)委員、  
木内委員(代理 島田)、米本委員(代理 山崎)、川口委員、今泉委員

(事務局)

諸岡市民生活部長、交通防犯課 佐久間主幹、鈴木副主幹、秋山副主幹  
山倉主任主事

### 4 議事

- (1) 津富浦ルート・しもふさ循環ルート・豊住ルートのアンケート調査結果について
- (2) その他

### 5 会議の概要

事務局より、平成23年度末で契約更新となります、「津富浦ルート、しもふさ循環ルート、豊住ルート」の沿線住民を対象に実施した、アンケート調査の集計結果を次のとおり報告した。

#### アンケート調査結果

事務局：平成23年度末で契約更新となります「津富浦ルート、しもふさ循環ルート、豊住ルート」について、次年度以降の契約内容に、沿線地区住民の要望・意見等をできるだけ反映させていくことを目的にアンケート調査を実施した。

アンケート調査結果の概要は次のとおりです。

バスを利用している方の職業に関する調査では、無職の方が一番多く45.5%次いで主婦が20.9%、バスを利用している年齢構成では、

60歳以上の高齢者の方が79.5%と「高齢者の日常生活の足」として利用されている。

バスの利用目的では「日赤などの病院へ行くために利用している方が34%と一番多く、電車への乗り継ぎ、日常の買い物の順になっております。

バスの利用頻度では、週1回以上利用する方が、全体の半数以上となっております。

バスの利用目的に関する調査では、「他に交通手段がないから」が一番多く、次いで「バス停が近いから」「料金が安いから」といった、手ごろな交通手段だからという理由が多く占めております。利用者の多くが高齢者であることからの結果と思われます。

利用者の満足度調査では、「満足とやや満足」を合わせると、運行本数では47%、運行時間では57.3%、運行ルートでは58.9%目的地までの時間では72.5%、電車との乗り継ぎでは45.5%という結果でした。

バスの運行本数や運行時間帯の評価については、1路線1台の車両により往復運行している関係から、やむを得ない部分もあるかと考えております。しかし、運行ルートや目的地までの時間については、概ね7割程度の評価をいただいている。

次に、今後のコミュニティバスを利用については、車の運転ができなくなったら利用するとの方が52%、もっと便利になったら利用するとの方が33%でありました。

その他、詳細は資料のとおりです。

議長： これより質疑に入ります。

委員： コミュニティバスは市民の何パーセント位の方が利用していますか。また、利用者数の推移はどのようになっていますか。

事務局： 市民の何パーセント位の方が利用しているかについては、調査をしていないので分かりませんが、7ルートの合計では約22万人の方が利用している。利用者数の推移は概ね横ばいであります。

委員： 今後、益々高齢化を迎えることになるが、コミュニティバスは高齢者の方が多く利用していることから、乗車人数が増えるということか。

事務局： 傾向とすれば、高齢者の利用者数は増加するかと思います。

委員： 津富浦ルートについて、朝夕、津富浦小学校の子どもたちの利用が多いが、増便は難しいとの説明であるが、昼間の便を減らして朝夕の

便に振り向けることはできないのか。

事務局： 確かに昼間の時間帯につきましては、利用者数が少ない状況ではありますが、少なからず高齢者の方の利用があることから減便することは難しい状況であります。

委員： 津富浦小学校の部活動の際も利用できるよう増便を検討願いたい。今回、契約更新ということから、どのような運行改善を検討してもらえるのか伺いたい。

事務局： 津富浦小学校の児童の利用につきましては、利用者の多くがリバティヒル団地からの通学となっておりますことから、津富浦小学校とリバティヒル自治会から、児童の通学時の安全確保の観点から、団地内へ乗り入れしていただき、バス停の設置をしていただきたい旨の要望書が提出されておりますので、関係機関と協議を進めていきたい。

委員： 全体の意見として、増便してほしいとの項目が多いが、増便した場合の民間路線バスへの影響はどのようになりますか。

事務局： コミュニティバスは、原則、民間路線バスの廃止したところを運行していることから競合は発生しておりません。しかし、市内には民間路線バス事業者が3社営業していることから、具体的に競合が発生した場合は調整が必要となります。

委員： 意見の中に、「直接市街地まで行きたい」との項目がありますが、具体的にはどのような事例ですか。

事務局： 合併前の旧下総町が運行していたものを引き継ぎ、JR滑河駅を起点に下総地区の中を循環運行しているものであります。

従って、しもふさ循環につきましては、バスが成田市の中心部へ向かっていないことから、このような意見が出されたかと思えます。

このような意見があることから、成田市の中心部からJR滑河駅までを運行している水掛ルートと、しもふさ循環ルートをJR滑河駅で乗り換える際には乗換券を発行し、追加料金がいらぬような仕組みに改善しております。

委員： 南羽鳥を經由してほしいとの意見があるが、現状はどのようになっているか。

事務局： 要望されている路線の道路につきましては、一定の幅員があることから通行には問題がないと認識しておりますが、現行ルートを変更するルートに変更することにより、現在運行しているルート上にあるバス停が廃止されることから、地元調整を要することになります。

事務局； 今回のアンケート調査に寄せられました意見等につきましては、運行内容の改善に向けて検討してまいります。また、改善案につきましては次回以降の会議の中で提案してまいります。

議 長： 以上で質疑を終了します。これをもって津富浦ルート・しもふさ循環ルート・豊住ルートのアンケート調査結果についての報告を終了いたします。

## 6 傍聴

(1)傍聴者 5人